



長又貞雄氏作



秩父病院

新築移転計画(その4)

院長 花輪峰夫

御好意に感謝

先日、当院の新築移転計画に対して、株式会社ベルク様よりご寄付を賜りました。秩父地域医療に対する当院の理念に賛同いただいた故とのこと。この上ない喜びと感謝の気持ちでいっぱいでありました。

株式会社ベルク様は50余年前、当院と同様、秩父神社の杜に抱かれた秩父市宮側町に創業されました。現在では埼玉県、群馬県を中心に大きく飛躍され、大会社に成長されています。両者の地域に貢献したいという思いはまったく同じであります。このように創業の地を同じくし、組織としてのポリシーを共有する株式会社ベルク様より御寄付を頂き、ひとしおの喜びを感じております。

私は、今回の移転計画で多くの人たちの限らない善意を肌で感じました。こんなにも人の好意を有り難く思ったことはありません。

私が嬉しかったことは、多くの立場の違う人たちが、私の計画に共感し、歓迎してくれたことです。友人達の献身的な援助がなかったら、ここまで来れなかったことは明らかです。彼らは私の精神的な支柱でもありません。国は私の計画が定住自律圏構想にふさわしいと理解を示し、県や市も好意的でありました。地元の皆さんは病院の移転を歓迎し、地権者の方々は喜んで土地を貸して下さいました。田口設計事務所様、施工者の奥村組、共和電気様、さらに下請け業者の方達も、私の思い入れを充分に理解し、素晴らしい病院を建ててくれました。秩父臨床医学研究所様をはじめ、関係する多くの機関、業者さん達も同様に援助してくれました。多くの善意に囲まれ、計画は順調に進んでいます。3月の開院を控えて、今、強い期待をひしひしと感じると同時に、責任の重さを痛感しています。私がやろうとしている仕事は、果たして一民間病院がやるべきものであるのか、私にも確信はありません。しかし、私がこの地で40年弱の間、秩父地域医療の当事者としてやってきた故の結論であり、喫緊の課題と想っています。「もう待てない」誰かがやらねばならない必然と考えます。自分の気力が続く限り、期待される限りは、一步一步でも成し遂げたい、継承して行きたいと思っています。

今回の表紙の写真は、当院と眼と鼻の先にあった旅館、竹寿館さんの御主人であられた、故長又貞雄氏の作品です。荒川の対岸の高所より望んだ武甲山で、巴橋、新病院の移転地も描かれています。氏が最も好きな景観とお聞きしました。今回、長又家より御寄贈頂きました。心から御礼申し上げます。

直腸脱の治療について

みなさんは直腸脱という病気をご存知でしょうか？直腸脱には完全直腸脱と不完全直腸脱とがあり、単に直腸脱という場合は完全直腸脱をさします。完全直腸脱は直腸が全層にわたって肛門外に脱出する状態で、長いときは40cm以上も脱出することがあります。高齢の女性に多くみられ、原因としては加齢とともに骨盤の中で直腸を支えている筋肉(肛門挙筋、肛門括約筋)が緩くなることによって生じると言われています(図1)。



図1 完全直腸脱

直腸脱の治療は手術のみです。術式は50種類以上あると言われていたますが、逆に言うと適した術式がなく、外科医の間でも試行錯誤を繰り返して術式が多くなっているのです。

日本でよく行われる術式ではガントー三輪法(脱出した直腸の粘膜をこぶ状に縫縮する方法)、ティールシュ法(テフロンテープなどで肛門管を締めて肛門を狭くして脱出しにくくする方法)およびその2つを掛け合わせた方法などがあります。これらは非常に簡単で局所麻酔でもできるため、高齢者に多いこの病気に対して広く行われてきました。しかし再発率が非常に高い(20~30%)のが問題となっています。

他の方法としては直腸固定術などがあり、お腹の中から直腸を周囲の組織に固定して肛門外にずり下がらないようにする方法もあります。この際、開腹(お腹を切っ



図2

て行う)の場合も腹腔鏡(カメラをお腹の中に入れて小さな傷で手術する)で行う場合もありますが、基本的には全身麻酔(患者さんを眠らせて人工呼吸

器を行う)での手術になるため、高齢者には手術後に心臓、肺に負担がかかることが心配されます。

当院では主にアルテマイヤー法という手術を直腸脱の患者さんに行っています。本法ではまず、脱出した直腸を切開して腹膜を開き、余分な大腸をひっぱり出します(図2)。

肛門括約筋および肛門挙筋を太い糸で縫縮(縫い縮めること)して筋肉の締りを改善したあと(これが肝心!)余分な大腸を切除して肛門と残った大腸をつなぎ直して出来上がりです(図3、4)。



図3



図4

手術時間はだいたい1時間から2時間で終了します。麻酔は全身麻酔に比べて体に負担の少ない腰椎麻酔といった背中からの麻酔で十分対応できるため、高齢者にも安心して行われます。

再発率は当院においても文献的にもだいたい数%であります。本術式が直腸脱の原因である骨盤の中で直腸を支えている衰えた筋肉を縫縮することを目的としているため、前述したガントー三輪法やティールシュ法に比べても明らかに再発は少ないようです。万一、筋肉の締まりが弱くなっても余分な腸を切除しているため、肛門外に腸が脱出することも防げます。

以上の様にアルテマイヤー法は直腸脱において負担も少なく非常に理にかなった術式であります。高齢者はどんどん増えていくため、直腸脱で悩む方も増えてくると思われます。何か、お尻に違和感があれば、まずはご相談ください。

(文責 外科 小澤修太郎)

連携医院のご紹介

* クリニック公園ばし *

正田 久和先生

クリニック公園ばしは、医科・歯科併設のクリニックです。前身は東町の正田歯科医院で、医科が加わり2008年4月に中村町に移転開院しました。木造漆喰の外観から、当初レストランか喫茶店と思われておりました当院でしたが、少しずつ地域の皆様に医院としてご信頼をいただき、お陰様で来春で丸3年になります。

2名の内科医師と2名の歯科医師が、それぞれの専門性を生かし連携しながら診療に当たっております。迅速な精密検査や緊急入院が必要な患者様には、秩父病院の院長花輪峰夫先生はじめ、各科の先生方にいつもの確かつ親身な対応をし

ていただき、心から感謝しております。

受診されます患者様お一人お一人に心身の健康を取り戻していただければという思いで、これからも日々診療に向き合って参りたいと存じます。

(診療科：一般内科・呼吸器科・アレルギー科・腎臓内科・高血圧・漢方・一般歯科・口腔外科・歯科矯正)



プチメール

この度、10月から研修にいらした山田章善先生に、当院での研修の感想を寄稿していただきました。今後も当院では研修医の先生方をお迎えし、当院スタッフと共に地域医療に貢献していただきたいと思います。

日本医科大学附属病院研修医二年目、山田章善です。平成22年10～11月に研修させていただきました。

こちらの病院に来てまず感じたのが、職種間の密な連携がとれており仕事が円滑に進むこと。また、看護師・技師等の職員の皆さんが患者一人一人をしっかりと見ていたこと。患者目線で考え、労を惜しまず献身的に働いていらっしゃいました。そして、院長先生、副院長先生をはじめとする先輩医師の先生方も献身的に働いていらっしゃり、その姿もまた非常に勉強になりました。10月はじめの当番病院日、夜中にほぼ全常勤スタッフが集まり働いていらっしゃったあの日のことは決して忘れません。

地域の中核病院とはいえ医療設備がなんでも全て揃っている環境ではありませんでしたが、その不足を補って余りあるマンパワーがこの病院にはありました。将来地域医療に携わる身として、「地域に貢献する医療とは」を学び経験することができました。

二カ月間、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



診療室にて：手前より山田章善先生、山田正己先生



診療科目 外科・内科・胃腸科・肝臓内科・循環器科・形成外科・腫瘍内科・肛門科・放射線科・麻酔科
人間ドック・一般健診：随時受け付けております。
お申込み電話番号(0494-22-3023)

受付時間 午前8:30～11:30 午後12:30～5:30
診療時間 午前9:00～12:00 午後 3:00～6:00
休診日 日曜、祝祭日



医療法人花仁会

秩父病院

〒368-0046 埼玉県秩父市宮側町16-12

TEL. **0494-22-3022** (代表)

FAX.0494-24-9633

ホームページ：<http://www.chichibu-med.jp>

Eメール：info@chichibu-med.jp